

長崎岡見録 四

洋学文庫
文庫 8
C 274
3



長河聞見録卷之四

目錄

朝鮮人

朝鮮船之形

挑灯

阿蒙陀屋鋪

蜜大

蜜牛

玉実盤

裸体人形

紅毛人

唐人學問_并之堂の事

うびんもの

鬼坊

唐人疾病の事

水揚号袋

阿蒙陀船之圖

長河聞見録 卷之四 目錄

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

長崎聞見録卷之四

晴保氏日記

朝鮮人

朝鮮人時々日本へ漂流する。行きの地へ着るも、皆長崎へ入る。それ
より對する一送る有り。世のころ沖へ漂あり。長門の徳志は遠まで。物
びつと船程の遠者也。又け時の遠まぐ物よ来る有りとも。志りては世
よりあ。世門くを船と人きり。そ漂流するも。長くは世門へ着るす
大抵をみか徳人のむるりけ國も文美あり。揮毫するもの。ゆ
き流しはとるもの内も。席面も。揮毫するもの。ゆ
る有り。まゝ魚網に獲るも。備後佐伯の流もたぐえりものあり。



長崎聞見録

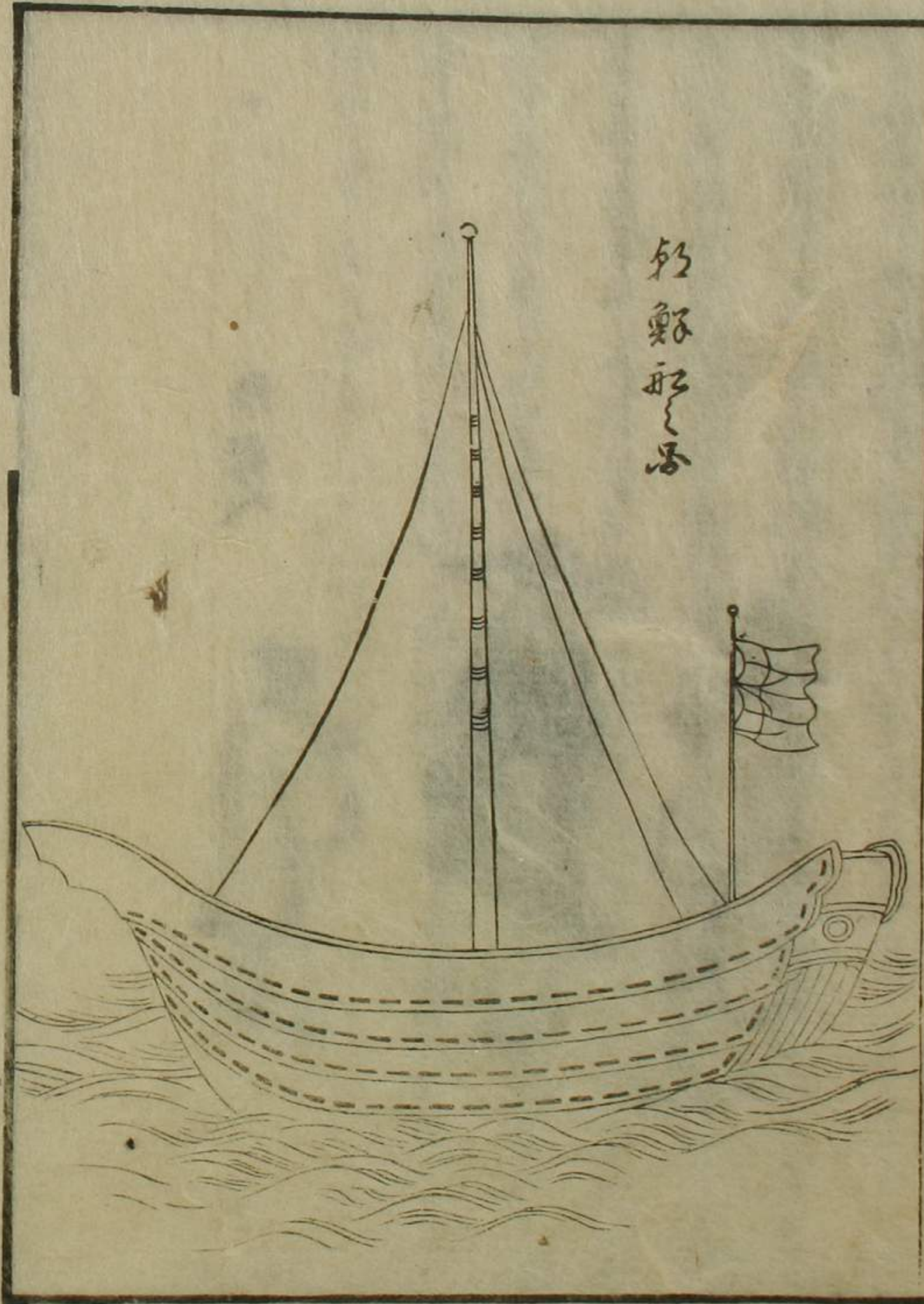
卷之四

その船をえりり藤原のほろりやうなるを。右とさハ七八るまゝらふと間
 るりもあり。こしく木の櫓をさめるものそ織行るる。一向用ひる
 るり。船船海色磁石にり。織行るる。一向とらあるらむいむといふあねを。
 左よあふど。日本を彼の子の修程とさ入下するありく。織行を用ひ
 程をちまよふにさるる。あこれこの地。織なつとく。こふ遠郷下街の徳
 者るとのめるまびついなとていふの西作とさ入さる。そ人おるらふいふ
 船乃くさるたふふと

船船人



舟形



提灯

ちやうちん。提灯を紙にて造る。大小の言ふは。持ちするに。ちやうちん。

提灯の形



阿茶陀魚浦

阿茶陀魚浦と長崎出崎あり。古より此處を多く目撃ししとせり。
 門内へ入ると、家指野牛羊の牧をくわして畑をあり。又阿茶陀にあり。
 ところら、（注） 擧げし人、舟をれまくる白きとて思致あり。そを毛玉川とてやとく
 号しあり。唐人の言はれはびぐんとり。此處へ入ると皆二階住居あり。まづ初
 入ると二丈程もあらざんばくごあやて。そより拾遺を交わすの堂あり。楯を
 ぶら下りて斗るをみし掛あり。此處を昔時阿茶陀日本より彼地より入る
 大風を遠く船破くる。擧げし西とせり。そいつは、そよりと風俗する
 そ二つ。風俗は吹起り。又家只るしぬ。そ二つ。風波すしとくさく。船動揺

まづ家。そ四ハ船換りて艮若する家。そみつた。船破る。本國へ向るあり。
 彼地の風俗とて。大變大難もさくるもの。志者せざるため。画々として
 る言とせん。相を渡のるふ入れ。凡そ拾遺を交わすのあり。そ左の方より。
 曲糸七八箇とせり。そ右の方より大船あり。仏間のやするあり。けし小
 船も鏡。そ人横置人となり。掛を。け中極。四本の人船。ありと
 け細く。長一尺五寸程あり。そか婦人の船を裸行あり。まを
 藤籠とせり。夏ハ枇杷と稱。秋ハ稲。そを中よりわくるあり。け下地
 と稱し。此船。そ人斗る。二つあり。それ船は皆清く。そて次
 のる。入る小。之船を往來あり。右の方よりほど。百戸あり。け清く
 硝子板も張る。け所とて曲糸七八箇とせり。又長八尺程。横置人

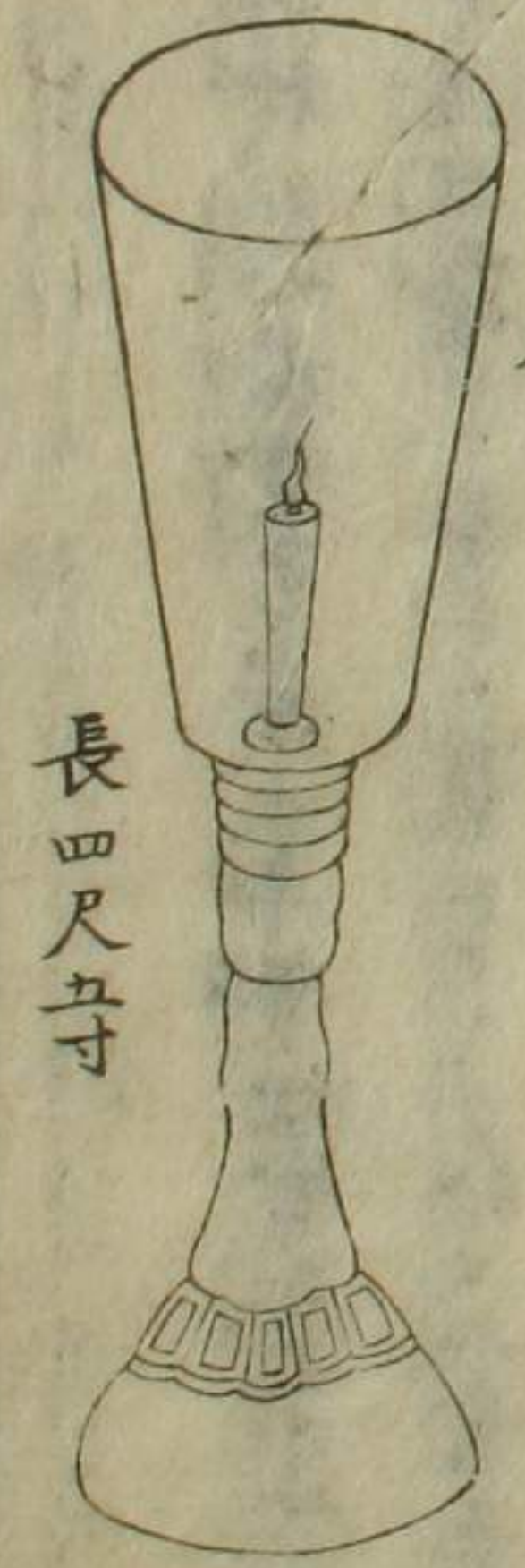
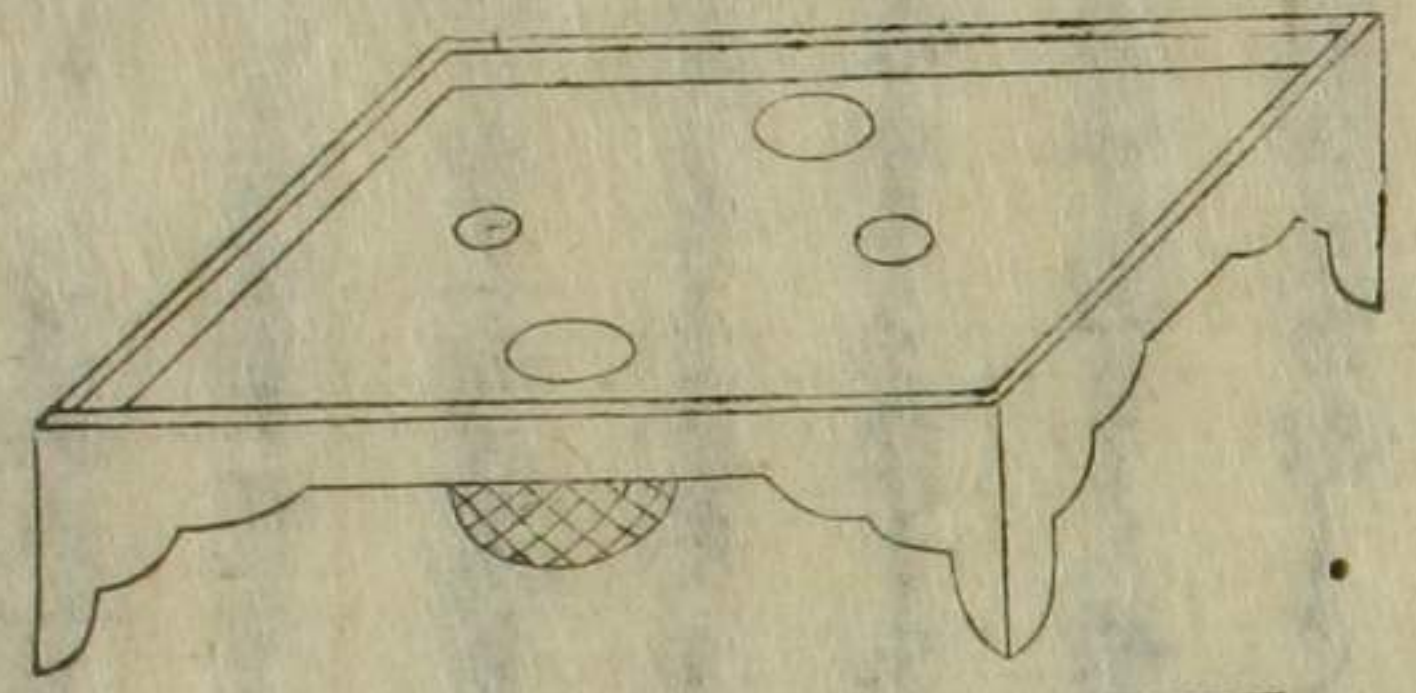
靈犬



漢名
靈牛即犂牛



玉突盤
婦人裸体人形



長四尺五寸

すふふり。教をけしけしとらひく。其の。さどく。いふ。まを。と。せ。て
 考へ。彼。より。も。度。よ。さ。る。や。り。に。程。も。用。也。え。り。日。本。の。飲。酒。の。や
 り。飲。酒。痛。飲。く。輝。發。さ。る。く。い。る。ま。使。して。な。さ。る。や。り。あ。り。て。そ
 り。銀。圓。の。徳。品。り。く。さ。り。の。酒。度。徳。品。の。お。あり。く。い。物。と。其。の。方
 へ。挿。れ。り。な。り。竹。人。と。る。あ。い。り。て。も。い。ひ。た。ん。は。昔。は。徳。品。と。い。は。さ
 ぬ。な。り。と。く。預。細。さ。る。る。一。向。を。あ。が。さ。る。る。り。と。く。又。事。より。給
 其。の。吟。味。は。さ。る。と。と。く。い。ひ。て。教。度。事。と。人。教。十。人。の。今。は。挿。れ。り。と
 く。も。一。向。より。見。さ。る。る。り。と。て。又。日。本。より。獲。り。る。徳。品。と。い。は。く。は。口
 け。り。と。く。各。り。一。番。人。より。差。入。る。る。る。り。と。品。と。く。一。番。取。り。る。もの。と。さ
 甲。入。紅。毛。人。と。偽。り。と。く。も。一。番。略。さ。る。る。品。は。法。法。と。り。不。國。より。英。法。の

挿。れ。り。と。い。は。さ。る。る。再。来。れ。時。は。一。向。福。さ。る。事。を。さ。る。り。と。い。は。さ。る。よ
 或。と。程。と。い。は。く。彼。等。と。一。番。の。品。は。さ。る。り。と。い。は。さ。る。人。へ。ふ。品。を。價。た。り
 挿。れ。り。と。い。は。さ。る。り。と。者。は。度。と。余。り。の。品。と。さ。る。り。と。い。は。さ。る。と
 彼。依。品。は。調。達。さ。る。ふ。極。く。の。難。と。い。は。さ。る。一。向。は。さ。る。と。い。は。さ。る。人
 曾。く。一。番。略。の。品。と。い。は。さ。る。百。倍。と。挿。れ。り。と。い。は。さ。る。と。い。は。さ
 り。と。い。は。さ。る。り。と。い。は。さ。る。品。徳。事。丁。事。と。い。は。さ。る。不。國。と。い。は。さ。る。の。品。と。い
 後。某。の。品。種。く。れ。と。い。は。さ。る。と。い。は。さ。る。り。と。い。は。さ。る。人。へ。い。は。さ。る。と。い
 その。中。で。動。と。い。は。さ。る。人。大。勢。動。躁。と。い。は。さ。る。本。石。の。品。と。い。は。さ
 り。と。い。は。さ。る。人。の。品。と。い。は。さ。る。と。い。は。さ。る。り。と。い。は。さ。る。人。へ。い。は
 紅。毛。人。より。一。番。人。獲。り。と。い。は。さ。る。と。い。は。さ。る。日。本。人。獲。り。と。い。は
 實。と

くびんとハ、阿蘭陀王の臣國賣船の舟に役して、日本へ出帆していつて、船中
 のと地との。船頭よりあしむ。船頭を別よあやしく。船中のものごと同と。船
 六月の末、七月の初ましく。毎来此地よこくる。此地よ船頭ありのる。船頭
 出帆阿蘭陀船へも揚まこと。多く此船住あり。くびんと始終出帆船内小
 居るあり。を毎年あるのびくんと。南は長江に船頭。船とこのるごとして。八月
 出帆の長ゆる。毎年こくるがくびんと。又毎年を此地よ留る。毎年こくる
 船のてくこと。ともお終又毎年日本をこくるあり。あことひくくひくんと。又毎年
 船れして。六年のりりのくびんと。日本をこくるあり。あことひくくひくんと。又毎年
 船れこくるごとく。西廻り船とこのる。彼阿蘭陀を。海内とめたり
 本國とこのるごとく。國をこくるごとく。日本へ出帆す。此地の名の臣國と

ざる地なり。ましく。くびんと。此船ありて。賣船を仕ひてこくるあり。
 日本へこくる船も。あやしく。くびんと。出帆ありて。日本より仕ひてこくる。日本
 へこくる。くびんと。三百四百里あり。あやしく。くびんと。本國へまこくる。四百
 あり。阿蘭陀。日本の九加程の小國を造ること。又又地理の事。又又細細とく。
 新世界の味の船をこくる。彼地の事。見えたり。船をこくる。とを思と
 吟味とる。役船ありて。け船とましく。ま地とめたり。人の知るる國を
 船頭のて。進く。船頭をこくる。或る無智なる國の事。別後
 船よを属中とて。出帆の事。あやしく。船の事。船を借りて。出帆しつる
 今ハ阿蘭陀へ属入まこくるあり

黒崎 漢名鬼奴

り、癘腫をもよほし、遂に過る所も至り、挿へて、指と切ると割る。癘治すか
 一加へくも、平素に治の症なりと思ひぬまふ。毒教ともなり、思ひぬまふ
 風俗もまた、其時を毒事と知りく。後、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事
 くとくとも、後、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り
 毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り
 毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り
 毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り

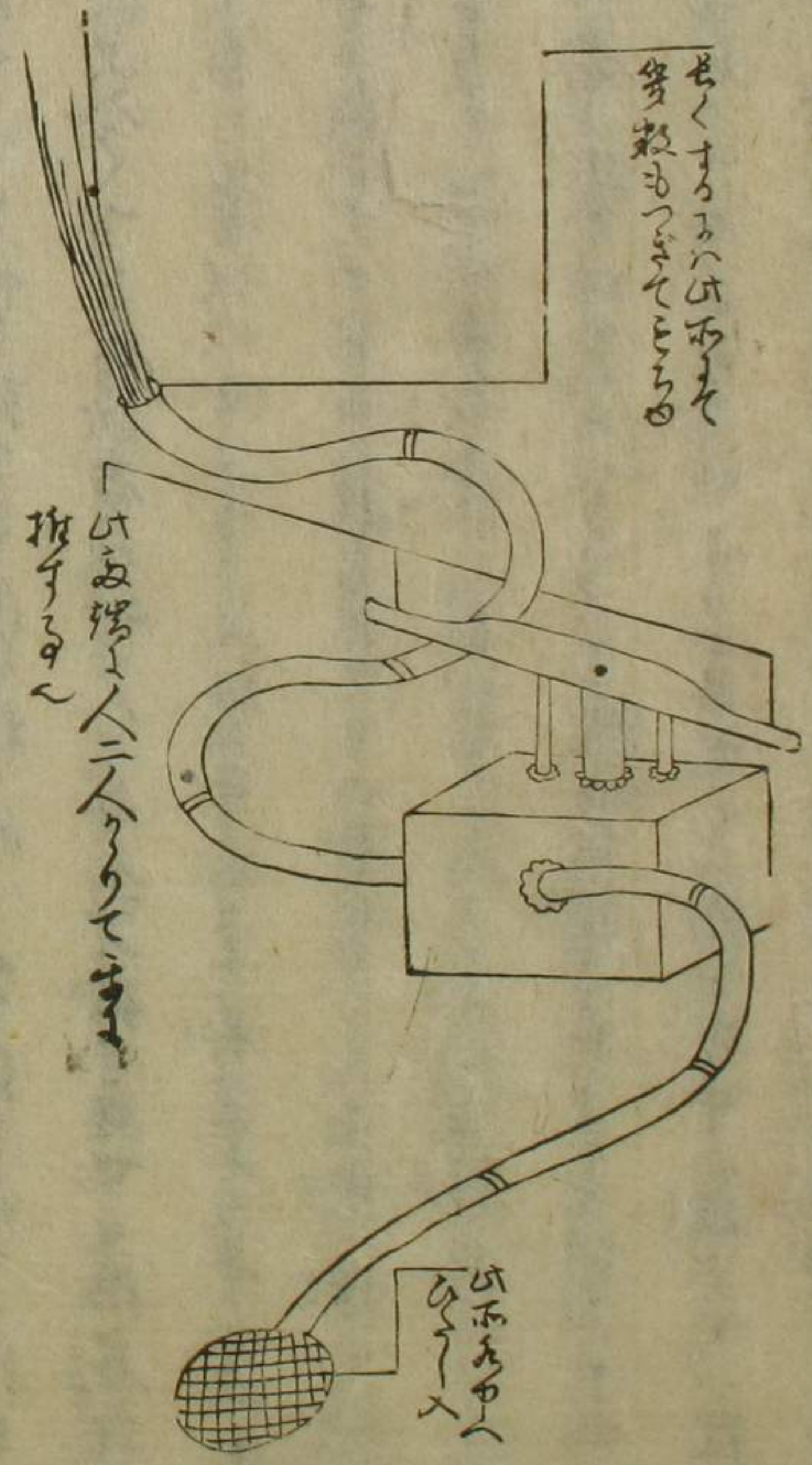
阿蘭陀船の事

阿蘭陀船を、林本奴組へ、惣國へ送る事あり、想て、其用の海まで
 色々、船打を打く、色々、船打を打く、色々、船打を打く、色々、船打を打く、色々、船打を打く

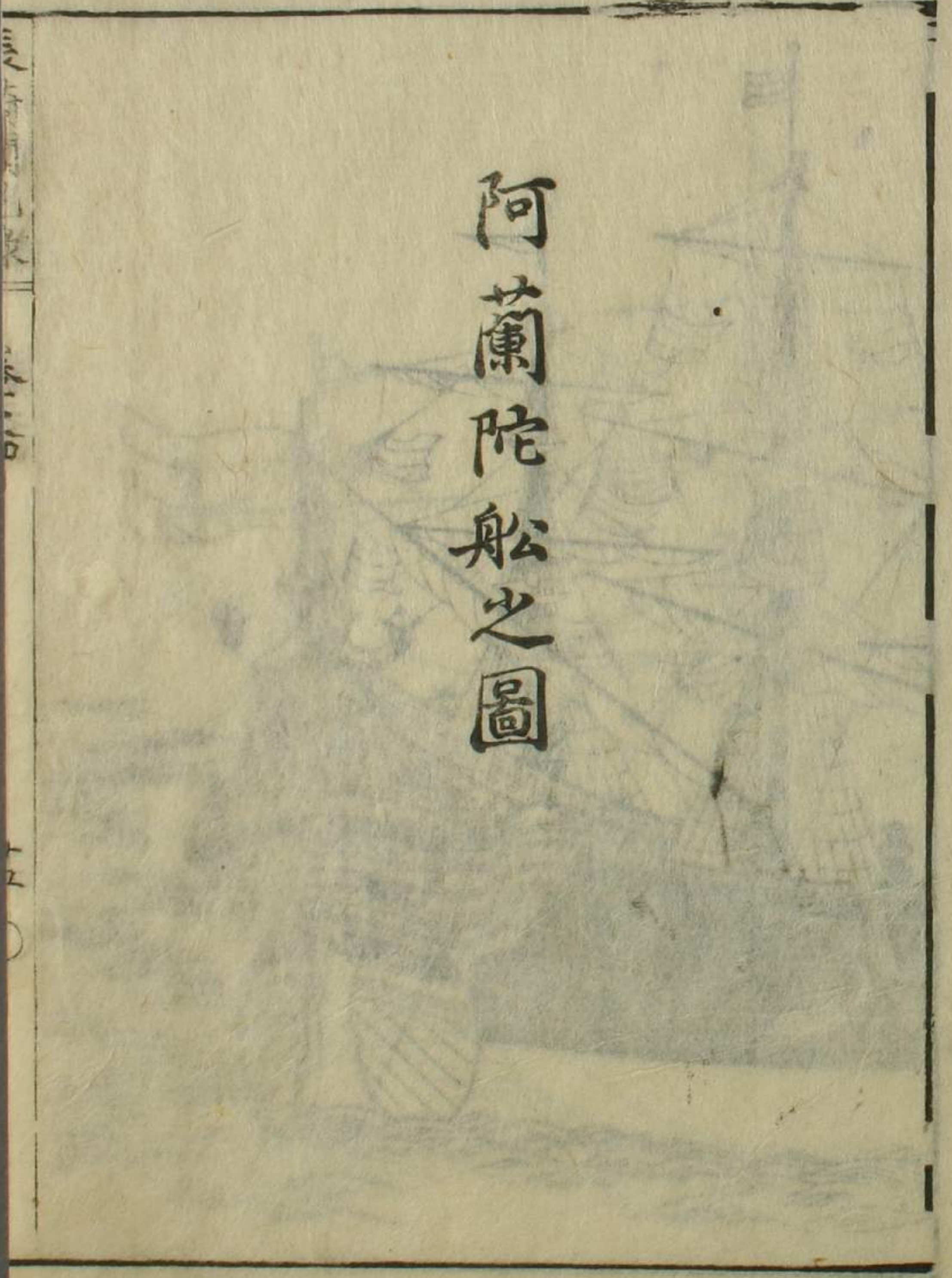
ら、癘毒をもよほし、遂に過る所も至り、挿へて、指と切ると割る。癘治すか
 一加へくも、平素に治の症なりと思ひぬまふ。毒教ともなり、思ひぬまふ
 風俗もまた、其時を毒事と知りく。後、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事
 くとくとも、後、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り
 毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り
 毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り、毒事とも有り

水揚器

長くするより此の如く
多敷もつては

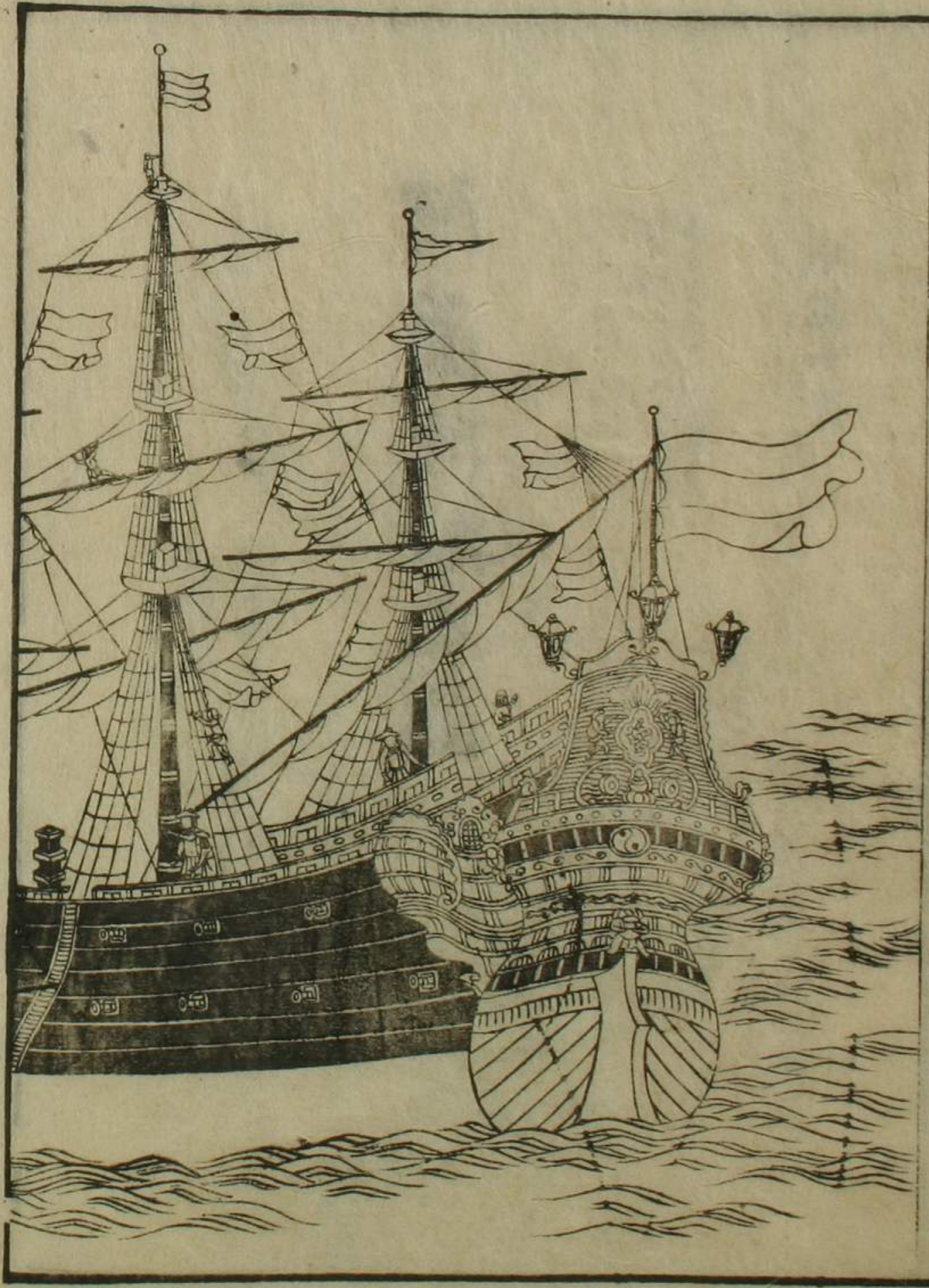


阿蘭陀船之圖





東山問月錄
卷之二
日



東山問月錄
卷之二

長山圖景金卷之四終

